

キボシチビコツブゲンゴロウ *Neohydrocoptus bivittis* (Motschulsky)

【選定理由】

熱帯系の種として分布の北限であり、農薬使用などの水質環境の悪化によって生活場所も失いつつある。

【形態】

体長 3~3.4mm。体はやや長い逆卵形。頭・前胸背は淡赤褐色。上翅は暗黒褐色で、側縁は幅広く淡赤褐色となり中央前と 3/4 付近で内方に広がり翅端に達する。体下面は赤褐色。上翅は 9 条のやや強い点刻列を具える。

【分布の概要】

【県内の分布】

名古屋市、日進市などから確認されている(池竹, 2012 ; 戸田・蟹江, 2013)。

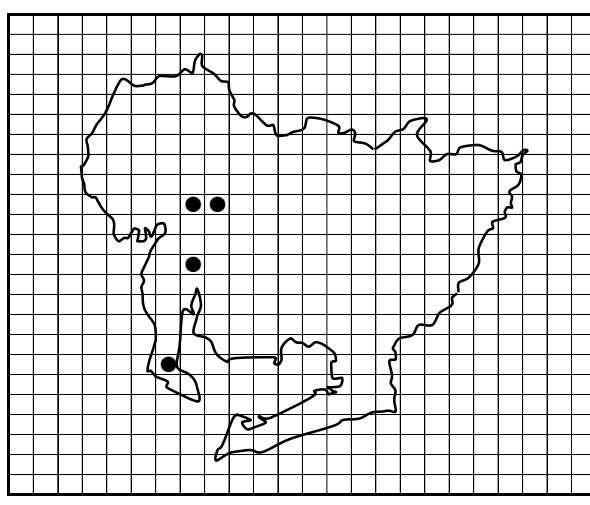
【国内の分布】

本州 (中部以西)、九州。

【世界の分布】

台湾、中国、タイ、ミャンマー、ベトナム、インド。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

池の周辺で植物がよく茂った浅瀬に生息している。生態については何も判っていない。

【現在の生息状況／減少の要因】

国のランクでは絶滅危惧 I B 類に引き上げられているが、県内では複数の池で近年も生息が確認できていることから、準絶滅危惧種と判定した。周辺から流入する水質の悪化やウシガエル、アメリカザリガニ、ミシシippiaアカミミガメなどの外来種による影響が心配される。

【保全上の留意点】

護岸を止め、生息できる池とその周辺の植生を含めた多様性のある池の保全が必要である。

【引用文献】

池竹弘旭, 2012. キボシチビコツブゲンゴロウを愛知県名古屋市で採集. ホシザキグリーン財団研究報告, (15): 10.
戸田尚希・蟹江 昇, 2013. 愛知県から採集された甲虫 II. 佳香蝶, 65 (256): 53-56.

【関連文献】

佐藤正孝, 1984. 日本産水棲甲虫類の分類学的覚え書, I. 甲虫ニュース, (65): 1-4.
北山 昭ほか, 1993. 日本のゲンゴロウ: 47. 文一総合出版.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)